



# としょかんだより 11月号

東峰学園（小学部）梶原弥生

木々の葉が色づき、朝、夕とすいぶん寒さを感じるようになりました。秋は読書をするのにふさわしいとされています。みなさんはどんな本を読みましたか。

読書を通じて、新しい世界が広がる楽しさ、想像が広がる楽しさを感じてほしいと思います。

## 「ひるどく」をしよう！！

もっともっと本に親しんでもらえるように昼休みに図書館（教室）で本を読む「ひるどく」に挑戦しています。一人、一人、静かに本を読み、本の世界に入り込んでいます。少しずつ厚い本を読む姿も見られます。毎日続けていくことで「エルマーのぼうけん」や「ハリーポッター」なども読めるようになりますよ。充実した読書の秋を過ごしてほしいなと思います。



## 新しい本が届きました

### 「もじゃもじゃドライブ」(おくやまゆか/作)

こうたのお父さんが自動車を買いました。ドライブに出かけると車が勝手に走り出しました。しかも車には、茶色の毛がもじゃもじゃはえています。この車の正体は、何なのでしょう。



### 「ワニのガルド」(おーなり由子/作・絵)

小学3年生のヒナちゃんは、引っ越したばかりで仲のいい子がいません。朝、「学校に行きたくないな」と思いながら歯ブラシをくわえると、口の中で歯ブラシが動き出しました。なんと小さなワニだったのです。ガルドというワニはさびしい人にだけ見えるおばけだといひます。



### 「ゆうすげ村の紙すき屋さん」(茂市久美子/作)

かえでさんは、ゆうすげ村で小さな旅館をやっている親せきのつぼみさんから「やまが和紙」のことを聞きました。今では作られなくなった「やまが和紙」をすくため、かえでさんは村で紙すき屋を始めました。すると変わったお客さんが次々とやって来ます。「ゆうすげ村の小さな旅館」の23年ぶりの続編です。



### 「アゲイン」(あんずゆき/作)

小学6年生のアオイは、親友から「いつも人まかせだよ」と言われました。父親が経営するカレー店は感染症の影響で客が減り、両親はケンカばかり。ある日、「フードバンク AGAIN」と書かれた建物の前で隣の席の友達に会いました。そこは「こども食堂」でした。

貧困や食品ロスなど社会問題を描いた物語です



わたし みらい えほん  
**私 たちの未来と SDGs の絵本②**

この地球で私たちがずっと安心して生きていけるように「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「海の豊かさを守ろう」など国連で17の目標を定めました。その目標をSDGs（持続可能な開発目標）と言います。今回は15番目の目標「陸の豊かさを守ろう」に関する絵本を紹介し、絵本から想像をふくらませて地球のこと、未来のことを考えてみませんか。

**「きつね 命はめぐる」(イザベル・トーマス/文)**

キツネは狩りに出かけた帰り、車にはねられてしまいました。冬が来てやがて春になり、死んだキツネの体は、土にかえり、たくさんの生き物たちの養分になります。



**「こうもり」(アヤ井アキコ/作)**

コウモリは空を飛べる唯一のほ乳類です。大きさは大人の親指ほどです。夕方になると活動し始めます。人間には聞こえない超音波を出しながら飛び、小さな虫などを捕食します。

**「鳥は恐竜だった」(鈴木まもる/作・絵)**

6600万年前に地球に巨大隕石がぶつかったことで恐竜をふくむ多くの生きものが絶滅に追いやられました。生き残った数少ないものの中に、鳥がいたのです。その謎を鳥の巣から考えます。



**「ひとがつくった どうぶつ の道」(キム・ファン/文)**

人間が自然を開拓して高速道路などを通すと、動物たちの生息地が分断されたり、動物たちが交通事故に合ったりすることにもつながります。そこで安全に移動できるように人工的にけもの道をつくり、人と動物の共生を考えます。



**「ぼくたちは みんな 旅をする」(ローラ・ノウルズ/文)**

オサガメはクラゲの大群を求めて1万キロメートルもの旅をし、また生まれた海岸に戻ってきて産卵をします。ホッキョクグマは氷がはると、その上をどこまでも狩りにでかけます。動物たちの生きるための旅は続きます。

**「野鳥のレストラン」(森下英美子/文)**

鳥のクチバシは、その鳥がよく食べるものに合わせた形をしています。草や木の実が食べやすい形、魚をつかまえやすい形など。どんな鳥がどんなものを食べているのか、見てみましょう。

